夕刊
八月十八日發行
定價　一ヶ月金六拾錢　郵税拾五錢
廣告料　金六拾錢　金九拾錢　金一圓五拾錢
（日曜祭日翌日休刊）
磐城新聞社
福島縣平市新町
電話五六四番
登録番号（ライ）第五五六四号
郵便振替口座仙臺二一番
發行人　柏木哲夫
印刷人　柏木哲夫
昭和四年八月廿日第三種郵便物認可

立秋雜想（三）

白木英尾

○流行歌とプロレタリート

盆三日の盆踊りで唄もえゝころ聞きあいたらうが、平の盆踊りの唄にだけは實に郷土色が出てゐて踊り子の心理をうまく把んでゐる。あとからあとからと色々の新作文句が募集されたり唄はれたりしてゐるが從來のより一向見榮に聞榮えがしない。これはどうしたわけだらうと思ふ。入山炭鑛あたりでも今年募集したやうであるが、果して今までの盆踊り唄を抑へ、尚ほ又『朝の六時からよオ』といふあの炭坑節ほど勞働者の生活が映像されてゐるだらうかと思ふ。

唄の流行る流行らないはその作曲にも因ることであらうが、平の盆踊りの唄だけはこれで澤山である。別な新らしいフシが出來てもそれには郷土色が附隨しない。今ではあのフシに郷土色が含まれてしまつたのだ。フシの上に歌詞が當て嵌められてゆくやうになれば、もう一バシ存在性を強調出來る。

今のプロレタリアの流行歌でも、矢張り當時の流行歌に替歌を當て嵌めてきてゐる。たとへば『東京行進曲』『この太陽』『海のない港』等々の歌のメロデーはそのまゝとして、それ〴〵の職場の獨自性を結びつけて唄つてゐるから面白い。それだけそれらの流行歌が一バシなものになつてゐる一体流行歌といふのにはその時その折の社會風潮が極めて鮮かに反映されるもので、今日のやうに映畫々々の時代にはその主題歌といふものが幅を利かして、例の主題歌版權論などで廣津和郎氏まで怒らせてしまふ今までの流行歌を作つてゐた型のセンメチンタリズムや頽廢的な歌から考へて流行歌と言へば、およそ非現實的なロマチンクなものと思はれて來た。

これなどもプロレタリートにしてみれば甚だ意味ないことで、プロレタリア民謡が一つも確立されてゐないこと、プロレタリアの炭坑節ほど勞働者のア的な思索を遮斷してしまふ。だから替歌でやるといふんだが、してみると今日の社會狀勢下においては流行歌からして槍玉に擧げねばならないわけで、これはなのとの關係に因つてプロレタリア的情感の重壓量に影響する結果だらうと思ふつまり現實離れのした言葉の遊戯よりも、實感から力强く表現されたものに迫力があるわけで、そこに亦民謡の大衆性が潜在してゐる

從來の盆踊りの唄は私の知つてゐる限り郷土の民謡として膾炙し得る要素があるので、一朝一夕のマヤカシものとは違ふのである。私はそこらにウジャ〳〵してゐるハヤリ唄、あんなものは大嫌ひであるが、この盆踊りのレコードだけは、何處へ旅をしてゐてもあれを聞くと獨りでに微笑ましくなつてくる。（終）

社會の今日

○

裸子を追ひ追ふ母の浴衣かな　梨花

風呂釜の焚火あかりに母がむく唐もろこしの

俳句

鮎のほる枝川遠く曇りけり。
麥湯して深く吊せし朝井かな。
菜の花の野に亂れ立つ鷄舍哉。
朧月船頭醉ふて歸りけり。
野遊びの唄を流して子の戻る。
盆踊りの唄から大變發展してしまつたが、今言つた『朝の六時からよオ』の炭坑節といふのには、私もよくは判らないが、プロレタリアの生活の苦澁が描かれてゐるのでなからうか。入山炭鑛で確か一等當選だつた『入山印の紺手拭』齡を包めて鮮かに反映されるもので、今日のやうに映畫々々の時代にはその主題歌といふものが幅を利かして、例の主題歌版權論などで廣津和郎氏まで怒らせてしまふ今までの流行歌を作つてゐた型のセンメチンタリズムや頽廢的な歌から考へて流行歌と言へば、およそ非現實的なロマチンクなものと思はれて來た。

これなどもプロレタリートにしてみれば甚だ意味ないことで、プロレタリア民謡が一つも確立されてゐないこと、プロレタリアの炭坑節ほど勞働者のア的な思索を遮斷してしまふ。だから替歌でやるといふんだが、してみると今日の社會狀勢下においては流行歌からして槍玉に擧げねばならないわけで、これは何處へ旅をしてゐてもあれを聞くと獨りでに微笑ましくなつてくる。（終）

社會の今日

○

裸子を追ひ追ふ母の浴衣かな　梨花

風呂釜の焚火あかりに母がむく唐もろこしの

實入りよき見ゆ　大澤雅休

拈華微笑

盆に不景氣は無かつた

◇

水浴もおしまひ露の葉芋、風の穂芒、世は秋だ

◇

乘降千三百名增

◇

宴會行脚、會計檢査の一行來る

◇

財布が涼しい爲氷が賣れなかつた今年のお盆

民謡雜記（五）

小濱牧泉

交通文化の發達は郷土音樂を稀薄ならしめ印刷文化は文字普及と相關するものであり社會組織の影響は階級觀念の浸潤を促した現今民謡創作家は決して詩人のそれより輕蔑されあらゆる藝術家のそれより劣つてゐると言ふ理由にはならない

兎に角民謡壇も、プロ民謡、心境民謡、生活民謡、自由律民謡、讀む民謡と、色々賑かなことだ。

まさに民謡壇は民謡の文學性延ひては文學の民謡性に討究の歩を進めんとしてゐる。僕もこうしてはおられない。（八月六日）

講談　お蘭陀お蝶（110）

渡邊默禪作
布施長條畫

格之助は苦笑して、餘儀なさそうに席に着いた

『馳走に相成るであらうが成べく速かに願ひたい』

『はい只今』

お吉は給仕口から茶椀を持つて出て茶入れと置合はせ、次に柄杓蓋置建水といふ人の鄕愁がそれである。從つて現今提唱されてゐる所謂新民謡は古民謡とは全然をよく見て左の手に受け、ではなくとも違つた創作藝術であると言つては獨斷過言だらうか、從つてそこかは最早現今本格的民謡なるものの出現と存在は望まれないであらう。文化の進展と社會機構はそれを充分に證明してくれる。又人々も本格民謡の存在を必要としなくなつた。ただ殘つてゐるのは古きものに對する東洋人の鄕愁がそれである。從ふ順序に持運ぶ、こと法の如くそれから茶をたてゝ中でも僕は感激と快味を左右されることはない。

民謡の本質と言ふ立場からなら嚴正なる意味に於て僕は民謡としての味を充分受取れた場合が多い。僕は自分の民謡に勝手に曲をつけて歌ふ。だからいつでも曲が同じ民謡で違ふ、それ

民謡の本質と言ふ立場からなら嚴正なる意味に於て最早現今本格的民謡なるものの出現と存在は望まれないであらう。文化の進展と社會機構はそれを充分に證明してくれる。又人々も本格民謡の存在を必要としなくなつた。ただ殘つてゐるのは古きものに對する東洋人の鄕愁がそれである。從ふ順序に持運ぶ、こと法の如くそれから茶をたてゝ中ではなくとも違つた創作藝術であると言つては獨斷過言だらうか、從つてそこかは最早現今本格的民謡なるものの出現と存在は望まれないであらう。文化の進展と社會機構はそれを充分に證明してくれる。又人々も本格民謡の存在を必要としなくなつた。ただ殘つてゐるのは古きものに對する東洋人の鄕愁がそれである。從ふ順序に持運ぶ、こと法の如くそれから茶をたてゝ中

『いやもうそれには及ばぬ御免蒙る』

一生懸命になつてのお世辭もお愛想も側から〳〵と打ち壞されて行く、お吉は取着く袖を失つて術なさそうにもぢ〳〵するのであつた

『アノ格さま、去年のことでございますがねえ』

思ひ切つて打ち出した。

『いや、是は御心入の御馳走、有難く頂戴いたした御暇乞仕る』

格之助は一禮して立たうとした

『あら、あなた、一寸御待ち遊ばせな』

お吉は驚いて飛び附く樣にいきなりその袖を掴んだ

『何か御用で御座るか』

男に其の袖を振はらはれて

『はい、アノ、少し』

流石にはしたないと氣が付いて怖ろしそうに其の手を引込めた

『あなた、是だけでは風情がございませんねえ、もつとお待遇をいたしとうございますわ、何ぞ召上り物を取寄せませうか』

ゝ手許もとかく狂ひ勝ちだ

『いや、是は御心入の御馳走、有難く頂戴いたした御暇乞仕る』

格之助は一禮して立たうとした

『あら、あなた、一寸御待ち遊ばせな』

お吉は驚いて飛び附く樣にいきなりその袖を掴んだ

『何か御用で御座るか』

男に其の袖を振はらはれて

『はい、アノ、少し』

流石にはしたないと氣が付いて怖ろしそうに其の手を引込めた

『あなた、是だけでは風情がございませんねえ、もつとお待遇をいたしとうございますわ、何ぞ召上り物を取寄せませうか』

あとら、そんなものぢやどざいません、御茶の道具の

『こを申したのに』

『アッ！そうか、身共は茶道の心得は皆無、道具と申せば甲冑、刀劍の外に見る目はござらぬ、生憎くであつたの』

『左樣でございますか』

『左樣でござる』

『オホホホ口眞似をしてらつしやるよ、憎らしい……あなた、アノ先程お詠み遊ばしたお歌をね、あれをお扇子にお認め遊ばして下さいましな、肌守にいたして置きますから』

『なに、扇子の肌守？それは初めて承つた、珍らしいことでござる、ちやが身共は生憎の惡筆、詠むことは好きぢやが、書くことは大嫌ひ、桁角のお賴みぢやが

ラヂオ

……十九日…（金曜）…

仙臺　JOHK

△前六、〇〇A　ラヂオ體操
△六、三〇A　家庭教育講座（親と語る）　東京女子師範學校教授倉橋惣三
△七、〇〇B　エスペラント講座　日本エスペラント學會國際常設代表進藤靜太郎
△七、三〇　夏期兒童講座（梅の王樣）　宮城縣仙臺第二中學校教授佐々木喜一郎
△九、〇〇A　氣象
△九、一〇　料理獻立（鮎の酢物）　中村光三
日用品値段
△一〇、三〇A　家庭講座（新しき舞踊）　高田せい子
△正午　A　時報　氣象
△〇、〇五A　管絃樂　東京ラヂオオーケストラ
△〇、四〇A　ニュース
△一、三〇　六、〇〇B　運動競技（大朝、東朝主催第十八回全國中等學校優勝野球大會狀況）
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇A　ニュース
△六、〇〇B（子供の時間）お話（答下二百七十三度）　戸波親平
△六、二〇A　コドモの新聞　村岡花子
△六、二五A　カレント、トピックス　ハロルド、バーマー
△六、三〇B　夏期英語講座　毛利八十太郎
△七、〇〇A　ニュース　氣象
△七、三〇C　講演（物理學の街頭進出）　柏木好三郎
△八、〇〇B　少女歌劇（狂亂橋供養）　久松一聲…作　須藤五郎…作曲　寶塚少女歌劇月組生徒
△八、四〇A　歌澤（一、後朝　二、ぬれぬ先　三、編蝠）　唄…歌澤芝艶
△八、五五A　映畫物語（鳥越やゝど道場）　竹本嘯虎
△九、三〇A　時報　ニュース　氣象

斷然五割安決行

何が梅月をそうさせたか？

それは時代の要求である!!!

先づ此の値段を御覽下さい。（をとほし付）

冷ビール　大ジョッキ　廿五錢
生ビール　大カップ　十錢
上酒　一本　四十錢
ウイスキー　一杯　八十錢
サイダー　一本　二十錢
うどんそば　二錢
冷しうどん　五錢
カレーうどん　七錢
冷むぎ　十錢
カレーライス　十錢
天どん　十錢
みつ豆、氷水一切　五錢
其他何品によらず市價の五割安

平驛前通り（新藤屋前）
梅月食堂

四倉海水浴場出張店開設中は千萬御愛顧を蒙り有り難く御禮申上げます

松聲颯々たる新舞子出張店は二更のボート（一時間十五錢）や川舟を常備し尚ほ破格の勉强を以て宴會の御用命にも應じますから精々御利用願ひます。

平町新田町
鳥料理　初音
電話一三六番

お醬油は……ヤマフル

味噌醬油
たひら正宗
鰹節　食料品

鹽屋　山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）

明治生命磐城代理店　山崎與三郎

漆器は共が專門

品質の正確と！
値段の破格と！
在庫品の豐富と！
懸命の奉仕は！
弊店のモットー!!!

各國產漆器、專門卸小賣
丸共共榮漆器店
平町三丁目北裏（元郵便局裏通り）
記念表彰品。恩賜賞與品。慰物贈答品。賞品景品類。御注文應調製
店員募集（十三才ヨリ二十二三才マデ）

別府温泉デ名高イ岩里家ノ家傳秘藥
烈シキ痛ミ、血ツミ、コシケ止ル事妙ナリ
爆彈的百パーセントの効果
黒箱—金參圓　赤箱—金五圓
無効返金藥（二日內服効無キ時ハ殘藥引替ニ即時返金ス）
百藥盡キテ最後ニ服ム可シ
責任即効秘やく
岩里
別府温泉特有湯ノ華製劑ニテ皮膚病最高の權威藥
金武圓　金參圓　金五圓
効目的確の高貴やく
別府皮膚藥　金三十錢　金五十錢
發賣製藥元　別府市鶴外園　岩里天然堂
代理店　渡邊いと

鄕土名物　平盆踊り賣出し
金光堂時計店
ビクター　コロンビヤ　特約店
電一九五

專門　一般內科
內科ハ何デモ診療致ジマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五（電話一八一番）
川井內科診療所
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

季節御料理
柳川　一人前　金二十五錢ヨリ
うな井　金三十五錢
金五十錢
蒲燒　金五十錢ヨリ
右大々勉强出前迅速
大蒲燒
鳥料理
折詰
請司理
仕出し部
田町　魚榮
電話四二四番

今年の海水浴も愈々來日曜頃で大團圓か

氣溫は案外高いが水が冷い　結局例年より收入減の模樣

近頃しばらく連日九十度以上の炎暑が續いたので各海水浴場とも今年棹尾の賑ひを見せてゐるが去る八日立秋以來は氣溫としては殘暑に過ぎた位申し分は無いが海水が減切り冷たくなつて人魚の泳躍も兎角土用中の樣なわけに行かず彼之海の魅力が日毎衰へつつあるので今年の海水浴は來る廿一日の日曜頃が最終となるではないかと豫想される而して清算の結果は深刻な不況から人出の多かつた割合にみいりは數割の減少と云ふ事になるであらうと。

△乘車—十四日一、八五〇（二、〇三四）十五日四、四二六（三、三四五）十六日二、四二七（二、六〇六）△降車—十四日一、八四七（二、〇四九）十五日四、八四一（四、三七八）十六日一、八三一（一、五一八）

混雜中に迷ひ子五人

十五日の人出數萬

平町盂蘭盆は舊十五日夜の人出數萬と註せられたを最高に前後三日間共天候に惠まれて盛大裡に終つたが非常な雜沓を呈した爲平窪村下平窪農佐藤光彌長女フミ（六）外四名の迷子を出し一時大騒ぎをした程であつた

觀世音例祭

今明兩夜の賑ひ

平町五丁目と湯本町の觀世音祭典は今明兩日執行されるが余興の踊りで例年通りの賑ひを見るであらう

◇。。。